

## 【0歳児クラス】

### とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立上石原保育園
施設所在地	調布市上石原2-8-3

#### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

さまざまな素材に触れてみよう！

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

さまざまな素材を通して、感触を知る経験をしたい  
月齢差があるクラスでも1人ずつ様子を見ながら取り組めるか活動にした。

#### 2. 活動スケジュール

1. 片栗粉遊び (7月18日)
2. ウォーターベッド遊び (7月23日)
3. しゅわしゅわ遊び (7月29日・8月5日)
4. 氷遊び (7月31日)

#### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

##### 【準備物】

片栗粉, 水, トレイ, 保冷剤, 食紅, 乗り物や魚のイラスト, 重曹, クエン酸

##### 【環境設定】

- ・安心して取り組めるように自室にて活動した。
- ・乗り物や魚などのイラストを準備して、興味関心が持てるようにした。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- 1,片栗粉遊び → 片栗粉をたらいに入れ、粉の状態から遊び、水を少しずついれていった。
- 2,ウォーターベッド → 事前に準備したものを部屋に置き、自由に乗れるようにした。
- 3,しゅわしゅわ遊び → 重曹とクエン酸、乗り物の玩具を置き、少しずつ水を入れた。
- 4,氷遊び → 事前に準備した氷をトレイに置き、溶けていく過程を楽しんだ。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・初めての感触に抵抗がある様子だった。
- ・ウォーターベッドは部屋に置いて置くことで抵抗がなくなったようで自分から乗りに行く姿が出てきた。
- ・氷遊びは身近なものだったのか、水遊びの延長のような形で遊んで器やお皿に乗せて遊んでいた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・初めての感触遊びとしてさまざまな素材に触れられたのはよかった。
- ・初めて触る感触のため最初躊躇する姿も見られたが、時間が経過したこと、繰り返し遊んだことで身近なものになっていくため、繰り返し遊ぶことの大切さを実感した。

## 【1歳児クラス】

### とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立上石原保育園
施設所在地	調布市上石原2-8-3

#### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

色を使った制作、感触遊びを楽しもう

<テーマの設定理由>

散歩に行く中で、周囲の四季折々の自然物や京王線や味の素スタジアムなど事象物を見て、子どもたちが色への認識、理解が広がる姿が見られた。子どもたちの日常に「色」が身近な存在であるため、様々な活動を通して、色への興味・理解を深めるため設定した。

#### 2. 活動スケジュール

日常の中で色への興味を持てるように絵本や歌を取り入れる 散歩時の声掛けも行い、色への興味を広げる

○7月17日 絵具遊び 単色の絵の具を選び、かき氷のシロップに見立て筆で描く。

○8月20日 絵具遊び ビー玉転がしアートで花火の模様をいれる。

○8月27日 片栗粉遊び 感触遊びとともに食紅を入れて、色の変化を楽しむ。

○8月29日 絵具遊び 風船に水を入れて、ブドウの制作として絵具をつけて模様付けでスタンプする

○9月17日 9月24日 寒天遊び 感触遊びを楽しみながら、さまざまな色の寒天に触れて混ぜて透明カップに入れてとのふれあいを楽しもう

連絡帳アプリにて日々活動の記録を保護者と共有

#### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○7月17日 絵具遊び 絵具、筆、白画用紙 好きな色を選び、適当に溶いた絵具で自由に色づけ

○8月20日 絵具遊び ビー玉、缶、絵具 2人ずつ取り組み、ビー玉の転がし方の援助をした

○8月27日 片栗粉遊び 片栗粉、食紅 人数に合わせたタライに自由に感触遊びから色付けをした。

○8月29日 絵具遊び 風船、画用紙、絵具 風船に水を入れて、スタンプしながら色づけた。

○9月17,24日 寒天遊び 水風船に入れた寒天 トレー 個人で遊びが広がるように個々にトレーを用意した

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

日頃より色への興味が出てきたので、「どんな色が好き」の歌や絵本を繰り返し楽しめるように入れていた。

○7月17日 絵の具遊び 単色の絵の具を選び、筆で自由に描く。

好きな絵の具を選んだあと、自由に筆で白画用紙に描いた。描いたものをかき氷の形に見立てるので、全体に色を伸ばせるように絵の具の濃度を調整した。

○8月20日 絵の具遊び ビー玉転がしアートで花火の模様をいれる

夏の花火の制作としてビー玉転がしアートを行った。花火の色を表現するため、赤、黄、緑、青の4色をそれぞれ子どもたちにも選んだ。2人1組で行い、他児は別室で待機をしたことで、落ち着いた環境の下、好きな色をじっくり選び、色の理解を深める時間をとることができた。

○8月27日 片栗粉遊び 食紅を入れて、感触遊びとともに色を楽しむ。

タライに片栗粉を適量入れて、感触遊びを行った。苦手な子どもも食紅を入れたことで自分の好みの色を入れたことで、少し片栗粉に触れようとする事ができた。

○8月29日 絵の具遊び ブドウの制作で水を入れた風船に絵の具をつけて風船スタンプに取り組んだ。

2人1組で他児は遊んでいた。色の認識につながるように声を掛けた。水風船の感触の不思議さを感じながら、色に親しむことができた。

○9月17日 9月24日 寒天遊び

感触遊びを楽しみながら、さまざまな色の寒天に触れて混ぜて透明カップに入れるなどして、色と寒天の感触を楽しんだ。

色付けした寒天を適度な硬さに凝固したものと水風船に色付けした寒天を入れて、爪楊枝で割ると様々な色の寒天が出てくる寒天遊びを行った。個々のトレイを用意して、自分専用の寒天で遊べたことで友だちが使っている色を欲しがったりする子もいた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・初めて、筆を使用した描画かつ全員での活動だったが、子どもたちも喜びかつ集中して描画に取り組むことができた。色づく楽しさを感じられたようだった。出来上がった制作を見て、選んだ色を声に出して話す様子が見られた。

・色の認識ができるようになった子が増えてくると、好みの色を選択したり、全種類を選択したりする子もいた。色が広がったり、色づいたことで制作のイメージの音を出して楽しむ姿があった。

・子どもたちに食べ物かつゆかりのあるブドウだったので、集中して取り組むことができた。黄緑色は「シャインマスカット」と色にあった種類を言っていた。

・気に入った色を集めるため、「青がいい」などと主張をする子もいた。爪楊枝で割った際に出てきた寒天の色を声に出して、感触遊びをしながら色の認識を広げられていた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

期間を初夏から秋に設定して、絵の具遊びや感触遊びなど夏に取り入れやすい活動を通して、色への認識、理解を深められた実感があった。色の理解に個人差はもちろんあり繰り返し、歌や絵本で視覚的に色とふれあっていたことで少しずつつながっていった様子だった。感触遊びの中でも色を意識したことで寒天遊びのジュースに見立てたり、身の回りのものに見立て遊びにつながったりと遊びの幅が広がったように感じた。

## 【1歳児クラス】

### とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立上石原保育園
施設所在地	調布市上石原2-8-3

#### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

絵の具を使った描画を通して色に興味を持つ。

<テーマの設定理由>

1歳児クラスの子どもたちは、おもちゃや絵本を見て色の名前が言葉で出てくるようになり、色への興味も感じられたため、「色」をテーマとして取り扱うこととした。色が混ざり合うことで変化する不思議や楽しさを伝えたいと考えた。

#### 2. 活動スケジュール

- 6月24日 七夕制作 綿棒で黄色い絵の具を点々と描き、星に見立てる。  
7月8日 絵の具を4色に増やし、紺色の画用紙に綿棒で描画をする。
- 7月18日 かき氷の制作をし、白い画用紙に筆を使って絵の具での描画をする。  
7月22日 18日と同じ内容
- 8月20日 ブドウの制作をし、風船に水を入れて小さく膨らませたものをスタンプとして使用し絵の具スタンプを行う。

#### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

○絵の具、綿棒、トレイ、画用紙。テーブルにシートを敷き、絵の具でテーブルが汚れないようにする。手が汚れた際に拭く濡れタオルを用意する。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・6月24日 最初に、保育者が子どもたちに「絵の具」を紹介した。黄色の絵の具をボトルからトレイに出し、綿棒に絵の具をつけ、綿棒で星形に色付けした画用紙を、子どもたちに見せた。星に見立てていることが伝わるように、きらきら星の歌を口ずさみながら行った。その後、子どもたちに一人1本綿棒を配り、絵の具の入ったトレイをそばに置いて制作を始めた。
- ・7月8日 1回目と同様に絵の具を扱い、さらに色を4色に増やした。今度は、子どもたちが4色から好きな色を自由に選んで画用紙に描いた。
- ・7月18日 絵の具の色当てクイズを行った。また、筆の使い方を伝えながら、画用紙に描いてみせた。
- ・8月20日 制作に取り組む前に、おままごとのブドウを使って、作るもののイメージを共有した。水を入れた状態のぶよぶよとした風船の感触を楽しみながら、絵の具につけてスタンプした。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・6月24日 きらきら星の歌を口ずさみながら行くと、子どもたちもよく知っている歌なので、一緒に嬉しそうに歌いだす。
- ・7月8日 1回目と同じように取り組むが、自由に色を選んで描いた。点々と描く以外に、線をビュービューぐるぐると描く児もいた。
- ・7月18日 筆の使い方を伝えながら、画用紙に描いて見せると、興味を持って見ていた。クレヨンよりも、弱い筆圧であっても色が画用紙に乗りやすいためか、普段は描画に集中できない児も、夢中になって取り組んでいた。
- ・7月22日 18日に取り組んでいたため、記憶に新しく準備をしている段階から、期待をしている。好きな色を選び、筆を上手にを使って描く。
- ・8月20日 スタンプすることが楽しく、繰り返し楽しんでいった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

1歳児クラスで幼いながら、絵の具を使った制作や描画を楽しんで取り組む様子が見えた。クレヨンよりも筆を使って絵の具で描いた方が、筆圧が弱い児でも描画を楽しめるというのはあらたな発見であった。色が混ざり合う楽しさ不思議さも、絵の具ならではの経験で、より「色」というものに対する興味が深まったように感じた。

# 【1・2歳児混合クラス】

## とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立上石原保育園
施設所在地	調布市上石原2-8-3

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

氷が溶けると？

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

毎年園全体で取り組んで楽しんでいる水遊びを、さらに楽しめるように設定した。水遊びを行う場所は、園舎で日陰ができる構造で庇がしっかりと広がるので、午前中は心地よい日陰になる。今年は例年よりも暑さが厳しい状況であるが、子どもたちを直射日光から守りながらも水遊びを存分に楽しめる条件が揃っている。

### 2. 活動スケジュール

令和7年6月～令和7年8月

### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【環境設定】テラスにタライを設置し、水を張る。子どもたちが水遊びをする際に使っている玩具を並べ、自由に使えるようにした。

【準備した素材や道具】

水、水遊び用の大きなタライ、大きさの異なる氷、食紅、食紅を加えた氷、水を使って遊べる水車、バケツ、ひしゃく、スプーン、カップ、ボール、ホース、石鹸、

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

6月は、まだ水遊び導入直後のため、水遊びの活動に慣れることを中心に設定したため1回だけ氷での遊びを実施した。7月になると水遊びに慣れたため、最初は小ぶりの氷を用意して遊んだ。8月には大きな容器で凍らせた食紅入りの氷を準備し、実際に触れたり水に浮かべたりしながら溶ける様子を観察した。また、溶けた後の色水を使って混色を楽しめるように発展させていった。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

小さな氷が手のひらで溶ける様子を、じっくり観察する子がいた。保育者がそっと指で触れて「冷たいね」というと「おててつめたい」と氷だけでなく自分の手が冷たくなっていく様子を表現していた。食紅を入れた大きな氷がタライの中で溶けていく様子を観察しながら「おみず、ピンクになった」と溶けて色が変わっていくことに気づいていた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

小さな氷を用意した時には、子どもたちにとって身近な素材なので自発的に触れたり、容器に入れて持ち歩いたりしていた。しかし、大きな氷や色を付けた大きな氷の時には、大きさに驚きの様子を見せていた。興味はあるため、最初は恐る恐る触れていた。回を重ねるごとに活動に慣れて、手で持ち続けると冷たいことがわかり、バケツに入れる子もいた。溶けていく様に魅了されるようで、愛おしそうになでる様子も見られた。氷は日ごろから家庭でも目にしやすい素材であり、気温や湿度などに応じて簡単にその様子に変化していくので、夏場の遊びとしてとても適していると感じた。

## 【2歳児クラス】

### とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立上石原保育園
施設所在地	調布市上石原2-8-3

#### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

砂や泥の感触遊び

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

園庭に砂場があり、自由あそびの中で砂を使ってすくったり、器に入れたり、固めたりたくさん触れ合って遊んできた。普段に触れ合っている砂が水と合わさることで、温度や硬さや重さなどが変化することを手や足・全身で感じる経験をしたいと考え設定した。

#### 2. 活動スケジュール

- 1, 手や道具を使って砂遊びを楽しむ。(4月)
- 2, 雨の後に泥になっているところを使って遊ぶ。(5月)
- 3, 裸足になって園庭で遊ぶ(6月)
- 4, 裸足で泥遊びを行う。(6月)

#### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

##### 【素材・道具】

ホース・水・砂・スコップ・バケツ・カップ・トレー

##### 【環境設定】

- ・熱中症対策として影になっている砂場を主な活動場所にする。
- ・裸足で遊ぶので大きな石や先のとがったものがないかなど事前に確かめ整備する。
- ・安全・安心を第一にし、全体を見渡せる位置で見守る。
- ・苦手な子は、興味を持った時にそっと促し、見る・感じるだけでも経験として大切

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・砂に触れる  
園庭や公園の砂場で手やスコップなどを使って砂遊びをした。
- ・雨の後の泥で遊ぶ  
雨の後の泥になっているところを使って指でつついたりシャベルですくったり泥団子を作っ  
てあそんだ。
- ・裸足になって園庭で遊ぶ  
園庭で裸足になって遊んだ。砂の感触を足で感じながら、砂場での砂遊びを楽しんだ。
- ・裸足で泥遊びを行う  
普段砂遊びをしている砂場に水を入れて裸足で泥遊びを行った。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- (活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)
- ・砂遊びではサラサラした感触やぎゅっとすると固まる感触を遊びの中で経験し、また日の当  
たるところと当たらないところの暑さの違いを感じて気づく姿があった。
  - ・裸足で遊ぶことで開放的になって、いつも以上にハイテンションで楽しむ姿が多く見られ  
た。
  - ・泥の冷たさや感触を手や足・全身で感じながら楽しむ姿が見られ感覚的な遊びに夢中になっ  
ていた。シャベルなどの道具を使って器に泥を入れる・流す・運ぶなども楽しみ見立て遊びや  
手指を使った操作遊びの広がりも見られた。
  - ・泥の苦手な子は泥のないところを作ってあげ、個々の様子に合わせて誘ったり促したり無理  
のない声掛けを行い、泥遊びの時間を個々のペースで十分楽しめるようにした。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・砂は日常からたくさん触れている素材であるが、意識的に性質の変化を子どもたちが感じら  
れる遊びをしたことで一つ一つの活動に子ども自身の気づきがみられた。子ども自身の気づき  
を待ち十分共感することでより大きな気づきと喜びにつながった。
- ・裸足や泥遊びでは個々の感覚の違いに合わせた環境設定が大切であり、個々の感覚の違いを  
理解し「見て楽しむ」「触ってみる」など段階的な関わりや声掛けのタイミングや言葉選びが  
必要である。一人ひとりが主体となって遊べるように環境設定の工夫をすることが保育をする  
うえで重要である。

## 【3歳児クラス】

### とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立上石原保育園
施設所在地	調布市上石原2-8-3

#### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

「野菜に興味を持ち、好きになろう」

- ・ピーマンを育てる。
- ・野菜スタンプで遊ぶ。
- ・さつま芋堀りに参加する。
- ・野菜の歌や手遊びなどを楽しむ。

<テーマの設定理由>

野菜が苦手な児が多かったので、野菜に興味を持ち好きになってほしかった。幼児クラスになり初めてピーマンを育てる経験をするので、野菜に興味を持ち美味しく食べる経験を持てるようにする。

#### 2. 活動スケジュール

- ・5月…ピーマンの苗を植える。
- ・6月…グループ毎にピーマンに水やりをする。
- ・7月～…ピーマンの収穫。野菜スタンプをする。収穫したピーマンを美味しく食べる。
- ・11月…さつま芋堀りに参加する。冬の野菜でスタンプをする。

#### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ピーマンの苗を植えるためのプランターや土などを用意し、植える準備を整えた。
- ・グループ毎に水やりや収穫ができるように、ジョーロやボウルを用意した。
- ・調理室にも声をかけ、野菜スタンプにするための野菜の切れ端を用意した。
- ・野菜に興味を持てるような絵本や手遊びなどを用意した。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・ピーマンを育てる。→土を柔らかくし苗を植え付けるところから子ども達と一緒にいった。水やりやピーマンの収穫も、子ども達が気づいていった。
- ・収穫したピーマンを調理室で美味しく調理してもらい沢山食べた。
- ・収穫したピーマンや色々な野菜の切れ端でスタンプをして遊んだ。
- ・野菜が出てくる絵本や手遊びを楽しんだ。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・登降園の時に保護者と一緒にピーマンの成長を見ていたので、「水をあげないと。」とか「ピーマンが大きくなってるよ。」と気づいて収穫を楽しみにしていた。
- ・自分達で育てたピーマンは味が違うと気づき、「美味しい。」と言って食べていた。
- ・他の野菜も食べられるようになり、「全然減らさないで食べられた。」と自信を持てるようになった児が多かった。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・ピーマンの水やりはグループ毎に行ったが、とても意欲的だった。苗を1階の出入り口付近に置いたので部屋からはピーマンの様子が見られなかったが、保護者の方と一緒に見られたことは良かった。子ども達からの発信で水やりや収穫を行うことができた。
- ・野菜の苦手な児が多かったが、収穫したピーマンは美味しく食べることができ、他の野菜も食べられるようになってきた。(野菜を減らしたい児はほとんどいなくなった。)
- ・野菜スタンプをしたり、野菜の絵本や手遊びをして、野菜に興味を持つことができた。散歩途中に「キャベツがある。」「同じピーマンがなってるね。」などと発見をしたり、お野菜クイズをしたり興味の間が広がった。

## 【4歳児クラス】

### とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立上石原保育園
施設所在地	調布市上石原2-8-3

#### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

スイカについての興味・関心を深める

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

給食でスイカが出たことからスイカへの興味が高まり、図鑑や絵本で理解や知識を深めた。図鑑に載っていたスイカの虫かごやお面に興味を持ち、子どもたちから「作りたい・やってみよう」との声があがった。自由遊びでも、スイカの被り物やモチーフを作るほどであった。

#### 2. 活動スケジュール

- 1, 給食でスイカが出る。(7月)
- 2, スイカに関する絵本や図鑑を読み、理解や知識を深める。(7月)
- 3, スイカに関する一斉制作や虫かごなどの制作を行う。(8月)
- 4, 自由遊びのなかでスイカをテーマにした制作やごっこ遊びを行う。(8～9月)

#### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・給食でスイカが出る日に合わせて絵本や図鑑を用意し、興味を持った時にすぐに手に取れるようにした。
- ・折り紙でスイカを作る際には、図鑑で見たスイカが再現できるよう、何色もの折り紙を用意した。
- ・子どもたちが実際に手に取って匂いや感触を感じられるよう、スイカ実物を用意した。

#### 4. 探究活動の実践

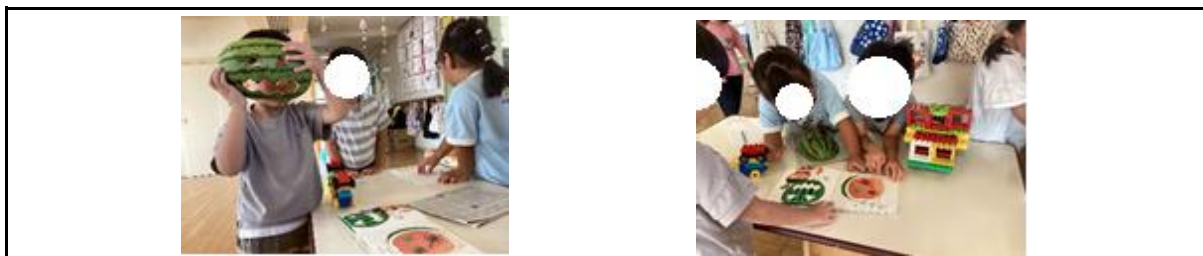
##### <活動の内容>

スイカにはどのような色や種類があるのか、子どもたちを中心に図鑑や絵本を活用して調べた。制作が苦手な児が「スイカを作ってみたい」と発言したため、まずは平面制作の折り紙でスイカを作った。徐々に段階を上げ、スイカのお面や虫かごを作った際には、スイカの匂いや感触を味わった。虫かごにはカブトムシを入れて、カブトムシがスイカを食べていく様子を観察することができた。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

折り紙では、制作が得意な児が隣で困っている友だちを助けたり、虫かごを作った際には虫が得意な児が活躍し、周りから認められる様子があった。スイカの匂いや感触についての気づきや感想を、友だちや保育者に盛んに報告する姿が見られた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

給食で出た旬の食材について、保育者が意識的に広げていくことで、子どもたちがこんなにも興味を持ち、理解を深めることができるのだと新しい発見となった。また、子どもの反応を写真やメモで記録しておくことで、担任間で次の計画を立てる際の大きな手掛かりとなることを再確認した。

## 【5歳児クラス】

### とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	調布市立上石原保育園
施設所在地	調布市上石原2-8-3

#### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

オクラのふしぎ

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

4歳児クラスの時に苗から育てたオクラが実をつけ、しばらく採らずにそのままにしておいた実から種が取れたことで、5歳児クラスに進級したときに種から育てることにした。

#### 2. 活動スケジュール

5月ごろに種を植える。

7月に初めて収穫ができ、観察をしながら絵を描いたり、調理室で調理をしてもらって食べたりした。

8月に収穫が遅れ、食用に適さないほど大きいオクラが採れたことで、粘りを出す実験を試みようということになる。

#### 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

中が見やすいよう、透明のタッパーを用意。

#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

日頃食べている野菜を種から育て、芽が出る様子から収穫まで関わり、食べるだけでなくその食材を様々な視点から観察する。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

あまり野菜が得意でなかった子も、オクラだけは好んで食べるようになるほど関心や親しみを持つことができた。



#### 5. 振り返り

##### <振り返りによって得た先生の気づき>

これまで栽培や収穫は例年行ってきたが、種をとって次年度も育てるということは初めてだった。連続性のある活動だったことも、子どもたちの関心に一層つながったのではないかと考える。また、食べるだけでなく、絵を描いたりその野菜の性質を生かした実験を行うことで、多面的にそのものと関わり、さらに親しみを持つことができたのではないかと考える。